(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 8 月 23 日(23.08.2012)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2012/111424 A1

(51) 国際特許分類:
A41B 9/06 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2012/052116

(22) 国際出願日: 2012 年 1 月 31 日(31.01.2012)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2011-031857 2011 年 2 月 17 日(17.02.2011) JP
特願 2011-161113 2011 年 7 月 22 日(22.07.2011) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社パアグ (PAAG Co., Ltd.) [JP/JP]; 〒5360008 大阪府大阪市城東区関目２丁目３番４号 Osaka (JP).

(72) 発明者; および
(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 住友 敬之 (SUMITOMO, Yoshiyuki) [JP/JP]; 〒5360008 大阪府大阪市城東区関目２丁目３番２号 Osaka (JP).

(74) 代理人: 鮫島 睦, 外 (SAMEJIMA, Mutsumi et al.); 〒5400001 大阪府大阪市中央区城見１丁目３番７号ＩＭＰビル 青山特許事務所 Osaka (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

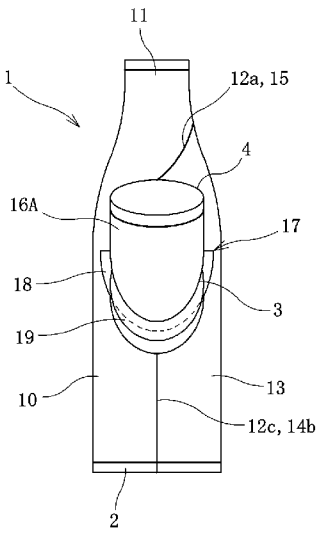
(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

(54) **Title**: UNDERWEAR

(54) 発明の名称 : 肌着

[図4]



(57) **Abstract**: An underwear comprising: a main front piece (10) which is formed of a stretchable material and has, in the upper part thereof, a tubular high-necked collar part (11) covering the wearer's neck; and a main back piece (13) which is formed of a stretchable material, the bottoms of the both side rims of which are sewn respectively on the bottoms of the both side rims of the main front piece (10), and the tops of the rims of which are sewn to the bottoms to shoulders of the high-necked collar part (11) to form armholes (3) surrounded by the rim tops of both sides. In the underwear, the main front piece (10) is formed of a cylindrical material and shaped by cutting, along the axial direction, from the opening at the bottom toward the high-necked collar part (11), and the main back piece (13) is formed of a cylindrical material and shaped by cutting, along the axial direction, from an opening at one end toward an opening at the other end.

(57) 要約: 伸縮性を有する素材からなり、上部に首を覆う筒状のハイネック部１１を有する前身頃１０と、伸縮性を有する素材からなり、両側縁下部が前身頃１０の両側縁下部に縫着され、上側縁がハイネック部１１の下端から肩にかけて縫着され、両側縁上部によって袖ぐり３を形成する後身頃１３とを備え、前身頃１０は、円筒状の素材からなり、その下端開口部からネック部１１にかけて軸方向に沿って裁断して形成され、後身頃１３は、円筒状の素材からなり、その一端開口部から他端開口部にかけて軸方向に沿って裁断して形成される。

WO 2012/111424 A1

明　細　書

発明の名称 ： 肌着

技術分野

[0001] 本発明は、主に女性が着用する肌着に関するものである。

背景技術

[0002] 人間は歳をとるにつれてシワやたるみ、シミが目立つようになることを避けることができない。そして、そのシワ等は、特に女性にとって気になるものである。そのため、シワ等が目立つようになった女性は、胸元が大きく開いた衣服の着用を躊躇する。また、胸元が大きく開いた衣服は、冬場や冷房がよく効いている場所では肌寒く、年齢に関係なく躊躇する。

[0003] 特許文献１には、伸縮性に優れた肌色のストッキングを用いて縫製した肌着が記載されている。この肌着は、首から胸の下にかけて覆うように構成されている。そのため、この肌着は、着用者のシワ等を隠すことができるとともに、保温性を確保できる。

[0004] この特許文献１の肌着のうち、全く縫い目が無いシームレスのものは、専用の製造機械を製作する必要があるため、製造コストが高くなるという問題がある。また、この特許文献１には、既存のパンティーストッキングを用いて肌着を製造する方法が記載されているが、その製造方法は複雑であり、生産性が悪いという問題がある。よって、この特許文献１の肌着は高価になるという不都合がある。

[0005] さらに、特許文献１の肌着は、着用者が首、肩、腕等を動かすと、特に肩から首にかけた生地にズレが生じ、そのズレが皺になる。そのため、シワ等を隠すことを目的としているにも拘わらず、逆に通常ではシワができにくい部位に生地による目立つ皺が生じる。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特開２００５－１１３３３８号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0007] 本発明は、着用者のシワ等を覆い隠すことが可能な肌着を安価に製造することを第１の課題とする。また、本発明は、着用状態で生地の皺の発生を防ぐことが可能な肌着を提供することを第２の課題とする。

課題を解決するための手段

[0008] 前記課題を解決するため、本発明の肌着は、伸縮性を有する素材からなり、上部に首を覆う筒状のネック部を有する前身頃と、伸縮性を有する素材からなり、両側縁下部が前記前身頃の両側縁下部に縫着され、上側縁が前記ネック部の下端から肩にかけて縫着され、両側縁上部によって袖ぐりを形成する後身頃とを備え、前記前身頃は、円筒状の素材からなり、その下端開口部から前記ネック部にかけて軸方向に沿って裁断して形成され、前記後身頃は、円筒状の素材からなり、その一端開口部から他端開口部にかけて軸方向に沿って裁断して形成される構成としている。

[0009] 本発明の肌着は、伸縮性を有する素材により縫製されているため、着用により肌のシワ等を覆い隠すことができる。そのうえ、冬場や冷房がよく効いている場所では保温性を確保できるうえ、春夏秋等の季節では紫外線を防ぐことができる。また、前身頃に筒状のネック部を一体に設け、この前身頃の両側縁下部およびネック部の下端から肩にかけて後身頃を縫着する構成であるため、着用者の正面側には縫い目が無い。さらに、前記前身頃および後身頃は、円筒状の素材からなり、その下端開口部からネック部にかけて軸方向に沿って裁断して形成されるため、ストッキングを製造する汎用の機器によって素材を製造できる。よって、製造コストを削減し、ユーザに対して安価に提供することができる。

[0010] この肌着では、前記袖ぐりに、伸縮性を有する素材からなり、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止する筒状の袖を縫着することが好ましい。このようにすれば、肩での生地のズレを更に確実に防止できる。

また、前記袖ぐりの周囲に少なくとも一部が位置するように、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止するズレ防止部を更に設けることが好ましい。このようにすれば、着用者が首、肩、腕等を動かしても肩から首にかけた生地にズレが生じることを確実に防止できる。その結果、前身頃に皺が生じることを防止できる。よって、肌色の素材を用いることにより、恰も肌を露出しているように見せることができる。

[0011] さらに、前記ズレ防止部は、前記袖ぐりに沿って下側を迂回させて前記前身頃から前記後身頃にかけて設けることが好ましい。

または、前記ズレ防止部は、一側の前記袖ぐりから他側の裾に向けて延びるように前記後身頃に一対設けることが好ましい。

または、前記ズレ防止部は、前記袖ぐりに沿った全周に設けることが好ましい。

このようにすれば、肩から首にかけた部位での生地の皺の発生を確実に防止できる。

[0012] さらにまた、前記ズレ防止部は、帯状の伸縮部材を縫着して設けることが好ましい。

または、前記ズレ防止部は、シリコーンを塗布して設けることが好ましい。

このようにすれば、前身頃および後身頃の伸縮力とズレ防止部の伸縮力とを簡単かつ確実に異ならせることができる。そのため、前身頃の袖ぐり部分がハイネック部の側へ移動することを確実に防止できる。

または、前記袖ぐりの周囲に少なくとも一部が位置するように縫着した帯状の伸縮部材からなり、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止するズレ防止部を設け、このズレ防止部に脇パッドを縫着することが好ましい。このようにすれば、汗が染み出ることを防止できるため、見苦しくはない。また、着用者の脇に伸縮部材の縁が当たることを防止できるため、着用感を向上できる。

発明の効果

[0013] 本発明の肌着は、着用により肌のシワ等を覆い隠すことができるうえ、保温性を確保し、紫外線を防ぐことができる。また、前身頃および後身頃は、円筒状の素材を軸方向に沿って裁断して形成されるため、ストッキングを製造する汎用の機器によって素材を製造できる。よって、製造コストを削減し、ユーザに対して安価に提供することができる。さらに、着用者の正面側には縫い目が無いうえ、袖やズレ防止部によって前身頃に皺が生じることを防止している。そのため、肌色の素材を用いることにより、恰も肌を露出しているように見せることができる。よって、肌のシワ等が気になる女性でも、胸元が大きく開いた衣服を躊躇することなく着用できる。

図面の簡単な説明

[0014] [図1]本発明に係る第１実施形態の肌着の着用状態を示す正面図である。

[図2]図１の肌着の着用状態を示す背面図である。

[図3]図１の肌着を裏返して扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

[図4]図１の肌着を裏返して側方から見た状態を示す側面図である。

[図5]（Ａ），（Ｂ）は前身頃を扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

[図6]（Ａ），（Ｂ）は後身頃を扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

[図7]（Ａ），（Ｂ）は袖部を扁平に折り畳んだ状態を示す正面図である。

[図8]ズレ防止部を構成する伸縮部材および脇パッドを示す正面図である。

[図9]第２実施形態の肌着の着用状態を示す正面図である。

[図10]図９の肌着の着用状態を示す背面図である。

[図11]図９の肌着を裏返して扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

[図12]第３実施形態の肌着の着用状態を示す正面図である。

[図13]図１２の肌着の着用状態を示す背面図である。

[図14]図１２の肌着を裏返して扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

[図15]肌着の変形例を示す正面図である。

[図16]肌着の他の変形例を示す側面図である。

符号の説明

[0015] １…肌着

２…裾

３…袖ぐり

４…袖口

５…袖山

１０…前身頃

１１…ハイネック部

１２…裁断縁

１２ａ…肩線

１２ｂ…袖ぐり部

１２ｃ…脇線

１３…後身頃

１４…裁断縁

１４ａ…袖ぐり部

１４ｂ…脇線

１５…肩線

１６Ａ，１６Ｂ…袖

１７…ズレ防止部

１８，１８Ａ，１８Ｂ…伸縮部材

１９…脇パッド

２０…伸縮層

２１Ａ～２１Ｃ…伸縮層

２２…脇身頃

発明を実施するための形態

[0016] 以下、本発明の実施の形態を図面に従って説明する。

[0017] 図１から図３は、本発明に係る第１実施形態の肌着１を示す。この肌着１は、前身頃１０と、後身頃１３と、一対の袖１６Ａ，１６Ｂとを縫着して縫製されている。これらは、伸縮性、通気性および発汗性が優れ、ストッキングにも用いられる肌色のストレッチ素材により構成されている。そして、本

発明の肌着１は、生産性を向上して安価に提供可能とし、かつ、着用者の正面側に縫い目を設けることなく、かつ、ズレ防止部１７を設けることによって前身頃１０に対する皺の発生を抑制したものである。

[0018] 前身頃１０は、着用者の胸の下部（アンダーバスト）から上側を覆う着丈であり、その上部には、図５（Ａ）に示すように、首を覆う筒状のハイネック部１１が一体的に形成されている。そのため、この前身頃１０には、ハイネック部１１との境界となる縫い目はない。前身頃１０は、図５（Ｂ）に示すように、収縮状態から約２～３倍伸長することが可能な円筒状の素材を用いている。この円筒状素材は、ストッキングを製造する汎用の機器によって製造することが可能である。前身頃１０は、円筒状素材を下端開口部からハイネック部１１にかけて軸方向に沿って裁断して形成される。裁断後には、裁断縁１２を広げ、裾２となる下端およびネックラインとなるハイネック部１１の上端が内向きに折り返されてほつれ止め処理される。なお、裁断縁１２のうち、ハイネック部１１の下端となる裁断端から、後身頃１３の身幅の半分の寸法領域Ｒ１は、後身頃１３と縫着される肩線１２ａとなる。また、肩線１２ａの下部の袖１６Ａ，１６Ｂを縫着する両側縁上部の領域Ｒ２は、袖ぐり３を構成する袖ぐり部１２ｂとなる。さらに、この袖ぐり部１２ｂの下部に位置する両側縁下部の領域Ｒ３は、脇線１２ｃとなる。

[0019] 後身頃１３は、図６（Ａ）に示すように、前身頃１０の袖ぐり部１２ｂと脇線１２ｃを加算した全高の矩形状ものである。この後身頃１３は、図６（Ｂ）に示すように、前身頃１０と同一直径の円筒状の素材を、下端開口部から上端開口部にかけて軸方向に沿って裁断して形成される。裁断後には、裁断縁１４を広げ、裾２となる下端が内向きに折り返されてほつれ止め処理される。なお、裁断縁１４は、上部が袖ぐり部１４ａとなり、下部が前身頃１０の脇線１２ｃに縫着される脇線１４ｂとなる。また、後身頃１３の上端縁は、前身頃１０の肩線１２ａに縫着される肩線１５となる。

[0020] 袖１６Ａ，１６Ｂは、図７（Ａ）に示すように、前身頃１０および後身頃１３と同一直径の円筒状の素材を裁断したものである。図中左側に位置する

袖口４は、内向きに折り返されてほつれ止め処理される。また、図中右側に位置する袖山５は、所定角度で傾斜するように裁断される。本実施形態では、図７（Ｂ）に示すように、筒状をなす素材を袖山５の傾斜角度で裁断することにより、一対の袖１６Ａ，１６Ｂを形成した後、袖口４の処理を行っている。

[0021] ズレ防止部１７は、図１から図３に示すように、前身頃１０および後身頃１３を縫着することにより形成される袖ぐり３の周囲に位置するように設けられている。本実施形態のズレ防止部１７は、図８に示すように、前身頃１０、後身頃１３および袖１６Ａ，１６Ｂを構成するストレッチ素材より伸縮力が強いストレッチ素材からなる帯状の伸縮部材１８を縫着することによって形成される。この伸縮部材１８は、袖ぐり３に沿って下側を迂回するように配置され、端部が前身頃１０および後身頃１３に縫着されている。また、伸縮部材１８には、略円形状シート（図示では半分に折り畳んでいる。）からなる脇パッド１９が縫着されている。この脇パッド１９は、吸水性および乾燥性が優れた市販の汗脇パッドを貼着してもよく、内部に吸水性および乾燥性が優れたパッド材を縫製してもよい。

[0022] これらの部材からなる肌着１を縫製する場合、例えば、まず、後身頃１３の肩線１５の中央を前身頃１０の裁断縁１２の端部に位置決めして、これら前身頃１０の肩線１２ａと後身頃１３の肩線１５とを縫着する。ついで、前身頃１０の脇線１２ｃと後身頃１３の脇線１４ｂとを位置決めして、これらを縫着する。その後、前身頃１０と後身頃１３の非縫着部分からなる袖ぐり３に、袖１６Ａ，１６Ｂを位置決めして縫着する。最後に、袖ぐり３に沿って伸縮部材１８を配置し、その端部を前身頃１０と後身頃１３に縫着する。

[0023] このように縫製した肌着１は、図２および図３に示すように、前身頃１０と後身頃１３の縫い目である肩線１２ａ，１５が、背面側に位置する。これは、前身頃１０を、筒状素材を裾２からハイネック部１１にかけて裁断して構成したことによる。但し、背面側では、ハイネック部１１の下端に肩線１２ａ，１５が現れる。しかし、この肩線１２ａ，１５は、着用者の髪で隠れ

るため、外観が損なわれることはない。

[0024] この肌着１を着用すると、前身頃１０、後身頃１３および袖１６Ａ，１６Ｂが伸長し、更に伸縮部材１８が伸長する。そして、着用者の首にハイネック部１１が密着するとともに、腕に袖１６Ａ，１６Ｂが密着し、アンダーバストに裾２が密着する。また、着用者である女性は胸が膨出しているため、前身頃１０および後身頃１３は十分に伸長し、肌に密着した状態をなす。但し、肌の表面の小さな凹凸には密着できないため、シワによる凹凸は表面には現れない。

[0025] また、この肌着１には、袖ぐり３の周囲に伸縮力が強い伸縮部材１８からなるズレ防止部１７を設けている。そして、このズレ防止部１７は、着用者の脇下に面接触した状態をなす。そのため、前身頃１０は、袖ぐり３の部分１２ｂが身幅方向の外側かつ後身頃１３の側へ引っ張られるとともに、後身頃１３も同様に、袖ぐり３の部分１４ａが身幅方向の外側かつ前身頃１０の側へ引っ張られる。その結果、肌着１の肩から首にかけた領域には、更に肌に密着するように引っ張り力が作用する。しかも、本実施形態の肌着１は、袖ぐり３に袖１６Ａ，１６Ｂを縫着したものであるため、袖１６Ａ，１６Ｂと着用者の腕との間の摩擦抵抗を得ることができる。よって、着用者が首、肩、腕等を動かしても肌着１の生地と肌との間にズレが生じることはない。

[0026] このように、本発明の肌着１は、伸縮性を有する素材により縫製されているため、着用により肌のシワ等を覆い隠すことができる。そのうえ、冬場や冷房がよく効いている場所では保温性を確保できるうえ、春夏秋等の季節では紫外線を防ぐことができる。

[0027] また、前身頃１０にハイネック部１１を一体に設け、この前身頃１０の脇線１２ｃおよびハイネック部１１の下端から肩にかけた肩線１２ａを、後身頃１３の脇線１４ｂおよび肩線１５に縫着する構成であるため、着用者の正面側には縫い目が無い。しかも、袖ぐり３の周囲にズレ防止部１７を設けているため、着用者が首、肩、腕等を動かしても袖ぐり３（肩）からハイネック部１１（首）にかけた部位に生地のズレが生じることを防止できる。その

結果、前身頃１０には縫い目も皺も無いため、着用者が恰も肌を露出しているように見せることができる。よって、肌のシワ等が気になる女性でも、この肌着１を着用することにより、胸元が大きく開いた衣服を躊躇することなく着用できる。

[0028] さらに、肌着１は、袖ぐり３に袖１６Ａ，１６Ｂを縫着しているため、この袖１６Ａ，１６Ｂに通した腕との摩擦により、袖ぐり３の部分の生地がハイネック部１１の側へ位置ズレすることを更に確実に防止できる。また、伸縮部材１８には脇パッド１９を縫着しているため、着用者の汗が染み出ることを防止できる。よって、汗をかいても見苦しくはない。さらに、着用者の脇にズレ防止部１７の縁が当たることを防止できるため、着用感を向上できる。

[0029] しかも、本実施形態では、前身頃１０、後身頃１３および袖１６Ａ，１６Ｂは、全て筒状の素材を裁断して形成するため、ストッキングを製造する汎用の機器によって素材を製造できる。しかも、円筒状の素材を軸方向に裁断して縫着することにより、簡単かつ確実に肌着１を縫製できる。よって、製造コストを削減し、ユーザに対して安価に提供することができる。

[0030] 図９から図１１は、第２実施形態の肌着１を示す。この第２実施形態では、ズレ防止部１７の構成だけが第１実施形態と相違する。第２実施形態のズレ防止部１７は、第１実施形態と同様の一対の伸縮部材１８Ａ，１８Ｂを用いている。これら伸縮部材１８Ａ，１８Ｂは、一端が後身頃１３の一側の袖ぐり３に縫着され、他端が後身頃１３の他側の裾２に縫着されている。即ち、第１の伸縮部材１８Ａは、一端が左側の袖ぐり３の上部に縫着され、他端が裾２の右側に縫着される。また、第２の伸縮部材１８Ｂは、一端が右側の袖ぐり３の上部に縫着され、他端が裾２の左側に縫着される。そして、これら伸縮部材１８Ａ，１８Ｂは、互いに交差する部分が縫着され、一体化されている。

[0031] この第２実施形態の肌着１を着用すると、伸縮部材１８Ａ，１８Ｂからなるズレ防止部１７が、前身頃１０を後身頃１３の側へ引っ張るように作用す

る。その結果、第１実施形態と同様に、肌着１の肩から首にかけた領域には、肌に密着するように引っ張り力が作用する。よって、着用者が首、肩、腕等を動かしても肌着１の生地と肌との間にズレが生じることはない。そのため、前身頃１０に皺が生じることを確実に防止できる。

[0032] 図１２から図１４は、第３実施形態の肌着１を示す。この第３実施形態では、ズレ防止部１７の構成を更に変更した点で、各実施形態と相違する。具体的には、第３実施形態のズレ防止部１７は、シリコーンゴムを袖ぐり３の沿った全周に塗布することによる伸縮層２０によって構成されている。この伸縮層２０は、前身頃１０および後身頃１３の裏面側に塗布されている。ここで、伸縮層２０からなるズレ防止部１７は、前身頃１０、後身頃１３および袖１６Ａ，１６Ｂより収縮力が強い反面、伸長力は弱い。よって、本実施形態では、図１４に示すように、鋸歯状に連続するように設けることにより、伸長量を確保できるように構成している。また、本実施形態では、ハイネック部１１のネックライン、裾２および袖１６Ａ，１６Ｂの袖口４にも、同様にシリコーンゴムからなる伸縮層２１Ａ，２１Ｂ，２１Ｃを設けている。

[0033] この第３実施形態の肌着１を着用すると、収縮力が強い伸縮層２０により、着用者の肩の周囲に袖ぐり３が密着する。同様に、伸縮層２１Ａ～２１Ｃにより、ネックライン、裾２および袖口４が着用者に密着する。よって、各部での生地のズレを防止できる。しかも、本実施形態の伸縮層２０，２１Ａ～２１Ｃはシリコーンゴムからなるため、着用者の肌との間の摩擦抵抗を増大できる。よって、更に確実に生地の位置ズレを防止できる。その結果、着用者が首、肩、腕等を動かしても前身頃１０に皺が生じることを確実に防止できる。

[0034] なお、本発明の肌着１は、前記実施形態の構成に限定されるものではなく、種々の変更が可能である。

[0035] 例えば、前記実施形態では、着用者の正面側に位置する前身頃１０に、ラインストーン等による装飾を施してもよい。また、ハイネック部１１には、ラインストーンや伸縮性を有するチョーカー等によって装飾を施してもよい

。さらに、前記実施形態では、肌色のストレッチ素材を用いて肌着を製造したが、肌とは全く異なる配色の素材を用いてもよい。

[0036] また、前記実施形態の肌着１は、袖ぐり３に袖１６Ａ，１６Ｂを縫着したが、図１５に示すように、袖１６Ａ，１６Ｂを縫着しないノースリーブとしてもよい。しかも、前記実施形態では、アンダーバストから上部を覆う着丈としたが、腰までの着丈としてもよい。但し、この場合には第３実施形態と同様に、アンダーバストの部分にはズレ上がりを防止するための伸縮層２１Ｂを設けることが好ましい。

[0037] さらに、第１および第２実施形態では、前身頃１０および後身頃１３より伸縮力が強い伸縮部材１８，１８Ａ，１８Ｂによりズレ防止部１７を構成したが、第３実施形態のように伸縮層２０によって構成してもよい。勿論、第３実施形態の伸縮層２０からなるズレ防止部１７も、伸縮部材１８によって構成してもよい。しかも、第１および第２実施形態の肌着１にも、第３実施形態と同様に伸縮層２１Ａ～２１Ｃを設けてもよいうえ、この伸縮層２１Ａ～２１Ｃも伸縮部材１８によって構成してもよい。

[0038] そして、ズレ防止部１７は、伸縮部材１８および伸縮層２０だけに限られず、種々の変更が可能である。例えば、前身頃１０および後身頃１３の製造時に、ズレ防止部１７を設ける部分に伸縮性が異なる糸を折り込むことにより、その部位が他の部位と伸縮性が異なるように構成してもよい。また、汎用のゴム紐を折り込むようにして、ズレ防止部１７を構成してもよい。

[0039] また、前記各実施形態では、ズレ防止部１７を設ける構成としたが、特に袖１６Ａ，１６Ｂを縫着する構成の場合、この袖１６Ａ，１６Ｂで前身頃１０の両側上部がハイネック部１１の側へ移動することを防止できるため、ズレ防止部１７を設けない構成としてもよい。勿論、図１５に示すノースリーブであっても、ズレ防止部１７を設けない構成としてもよい。この場合でも、少なくともハイネック部１１によって首廻りのシワやたるみは覆い隠すことができる。

[0040] さらに、前記実施形態では、後身頃１３を前身頃１０に直接縫着したが、

図１６に示すように、前身頃１０と後身頃１３の間に、伸縮性を有する同様のストレッチ素材からなる脇身頃２２を縫着し、脇身頃２２を介して後身頃１３を前身頃１０に縫着してもよい。

[0041] さらにまた、前記実施形態では、裁断により矩形状とした後身頃１３を前身頃１０に縫着したが、図４（Ａ）に示す一点鎖線に沿って、肩線１５の側の角部を面取りした構成として、縫着してもよい。このようにすれば、前身頃１０と後身頃１３を縫着した肩線１２ａ，１５を着用者の背中側に位置させることができる。

請求の範囲

[請求項1] 伸縮性を有する素材からなり、上部に首を覆う筒状のネック部を有する前身頃と、

伸縮性を有する素材からなり、両側縁下部が前記前身頃の両側縁下部に縫着され、上側縁が前記ネック部の下端から肩にかけて縫着され、両側縁上部によって袖ぐりを形成する後身頃とを備え、

前記前身頃は、円筒状の素材からなり、その下端開口部から前記ネック部にかけて軸方向に沿って裁断して形成され

前記後身頃は、円筒状の素材からなり、その一端開口部から他端開口部にかけて軸方向に沿って裁断して形成される

ことを特徴とする肌着。

[請求項2] 前記袖ぐりに、伸縮性を有する素材からなり、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止する筒状の袖を縫着したことを特徴とする請求項１に記載の肌着。

[請求項3] 前記袖ぐりの周囲に少なくとも一部が位置するように、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止するズレ防止部を更に設けたことを特徴とする請求項１または請求項２に記載の肌着。

[請求項4] 前記ズレ防止部は、前記袖ぐりに沿って下側を迂回させて前記前身頃から前記後身頃にかけて設けられていることを特徴とする請求項３に記載の肌着。

[請求項5] 前記ズレ防止部は、一側の前記袖ぐりから他側の裾に向けて延びるように前記後身頃に一対設けられていることを特徴とする請求項３に記載の肌着。

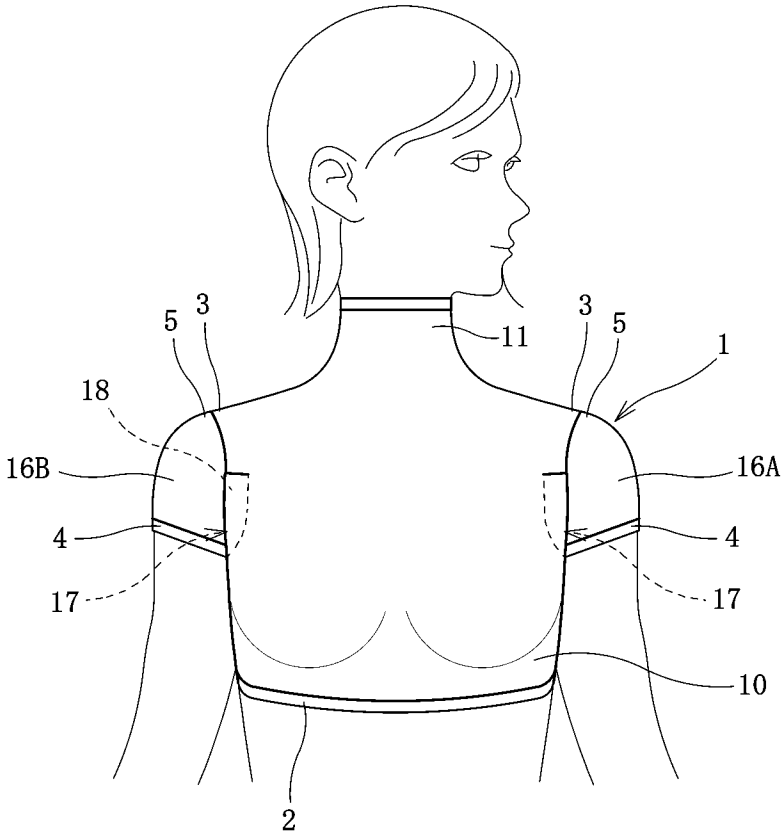
[請求項6] 前記ズレ防止部は、前記袖ぐりに沿った全周に設けられていることを特徴とする請求項３に記載の肌着。

[請求項7] 前記ズレ防止部は、帯状の伸縮部材を縫着して設けられることを特徴とする請求項３乃至請求項６のいずれか１項に記載の肌着。

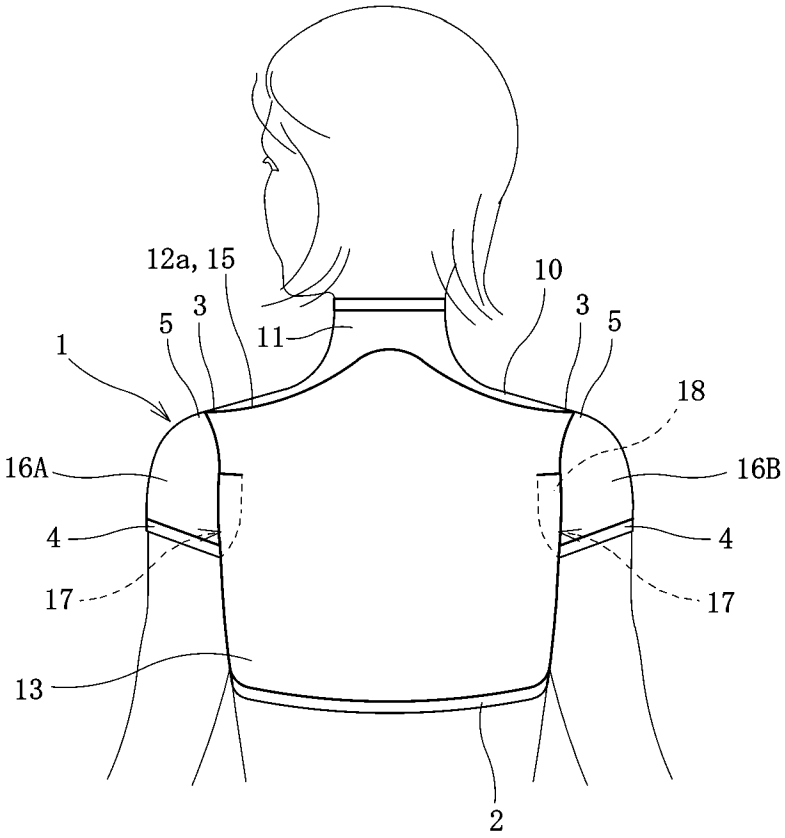
［請求項8］　前記ズレ防止部は、シリコーンを塗布して設けられることを特徴とする請求項３乃至請求項６のいずれか１項に記載の肌着。

［請求項9］　前記袖ぐりの周囲に少なくとも一部が位置するように縫着した帯状の伸縮部材からなり、前記前身頃の両側上部が前記ネック部の側へ移動することを防止するズレ防止部を設け、このズレ防止部に脇パッドを縫着したことを特徴とする請求項２に記載の肌着。

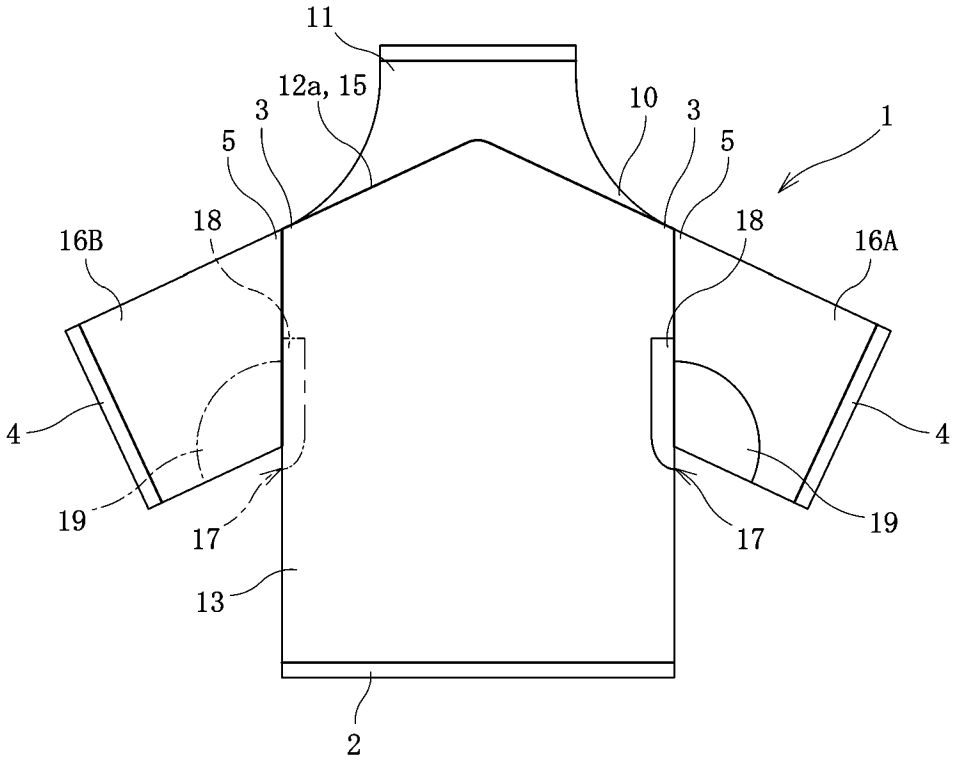
[図1]


5
3
11
3
5
1
18
16B
16A
4
4
17
17
10
2

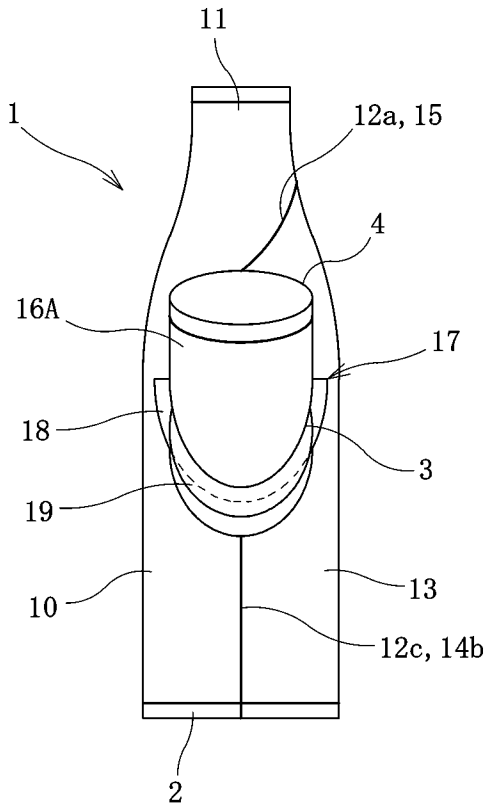
[図2]


12a, 15
10
5
3
11
3
5
1
18
16A
16B
4
4
17
17
13
2

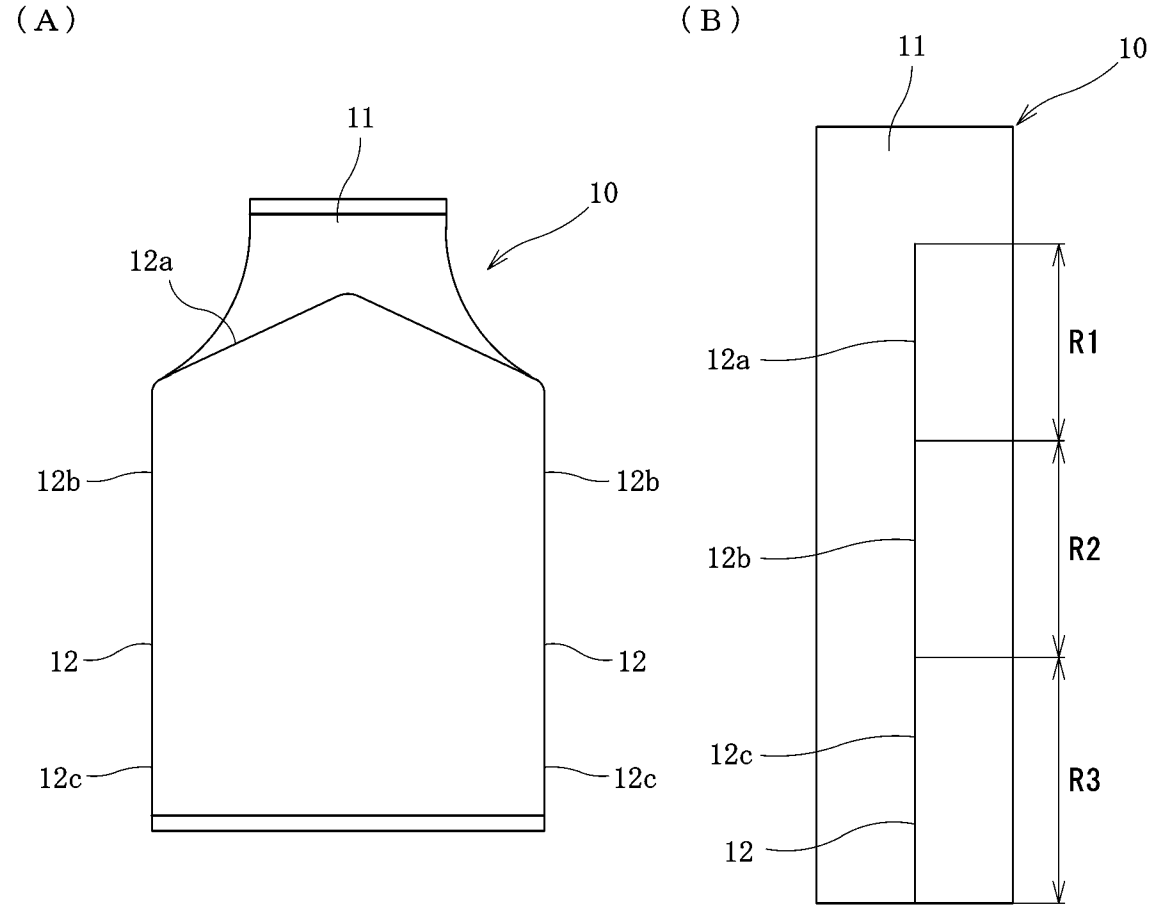
[図3]


11
12a, 15
3
5
10
3
5
1
18
18
16B
16A
4
4
19
17
17
19
13
2

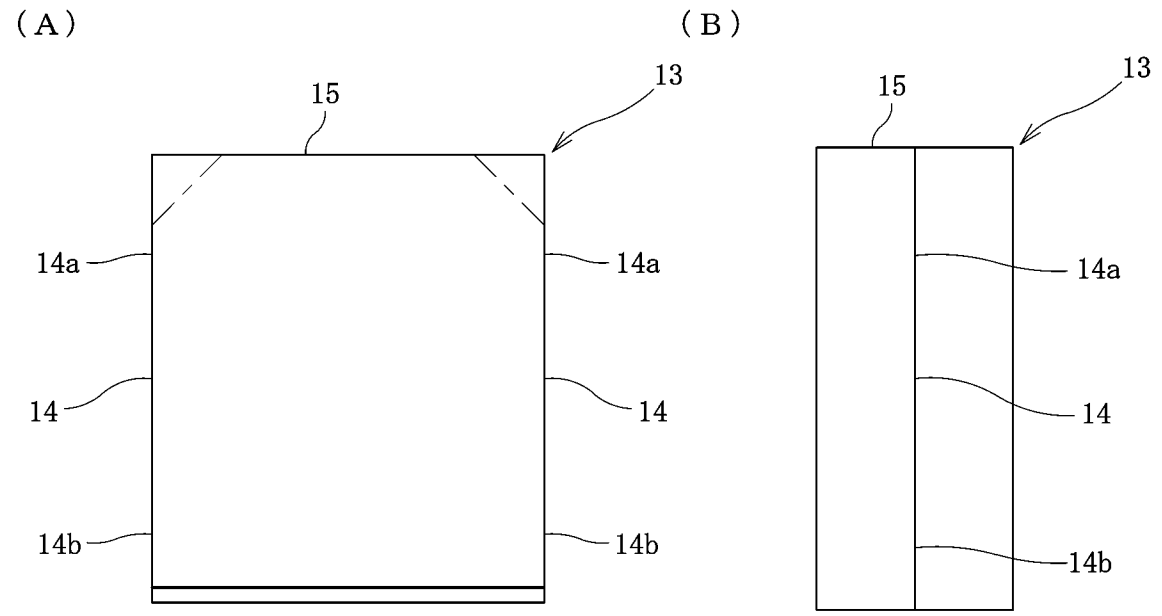
[図4]


11
1
12a, 15
4
16A
17
18
3
19
10
13
12c, 14b
2

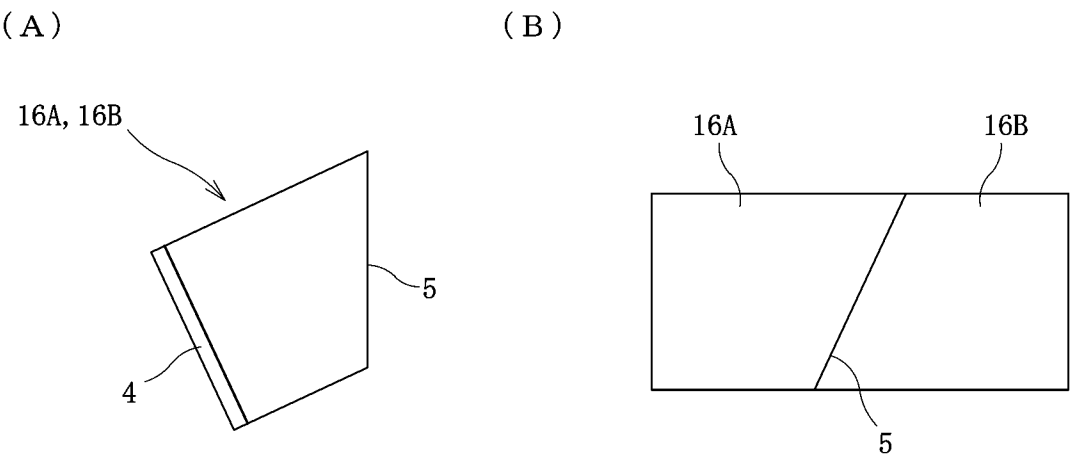
[図5]


（A）
11
10
12a
12b
12b
12
12
12c
12c
（B）
11
10
12a
R1
12b
R2
12c
R3
12

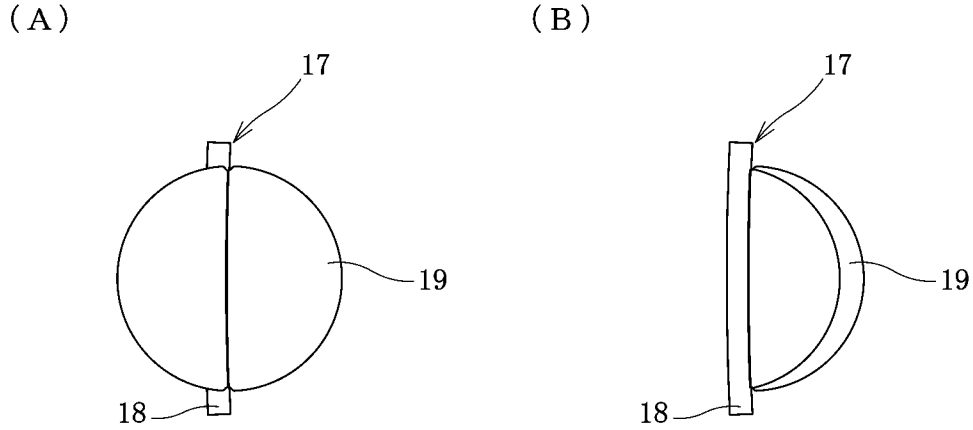
[図6]


（A）
15
13
14a
14a
14
14
14b
14b
（B）
15
13
14a
14
14b

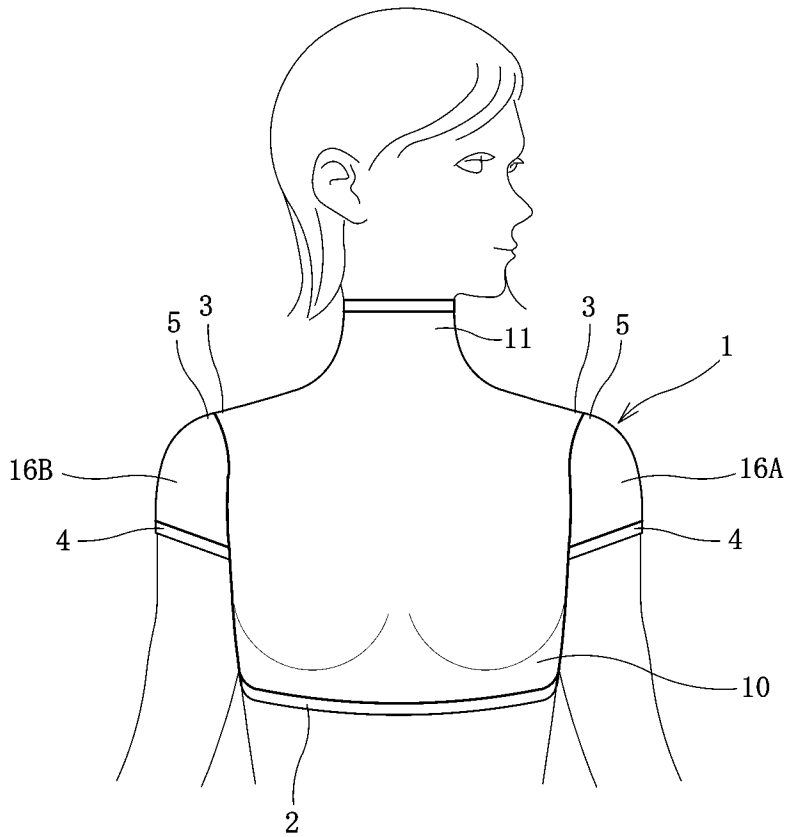
[図7]



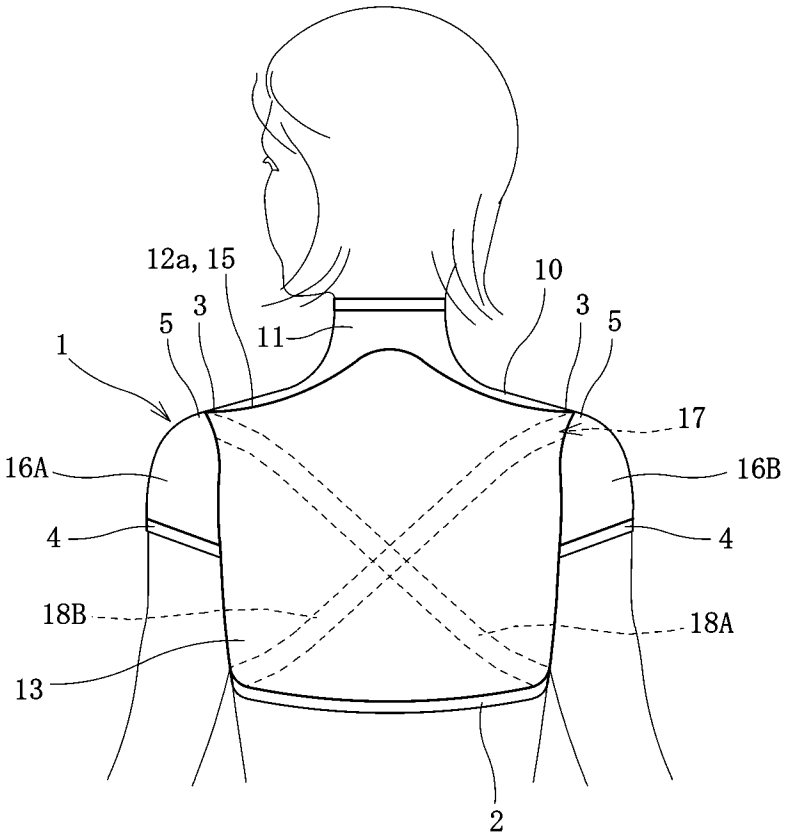
[図8]



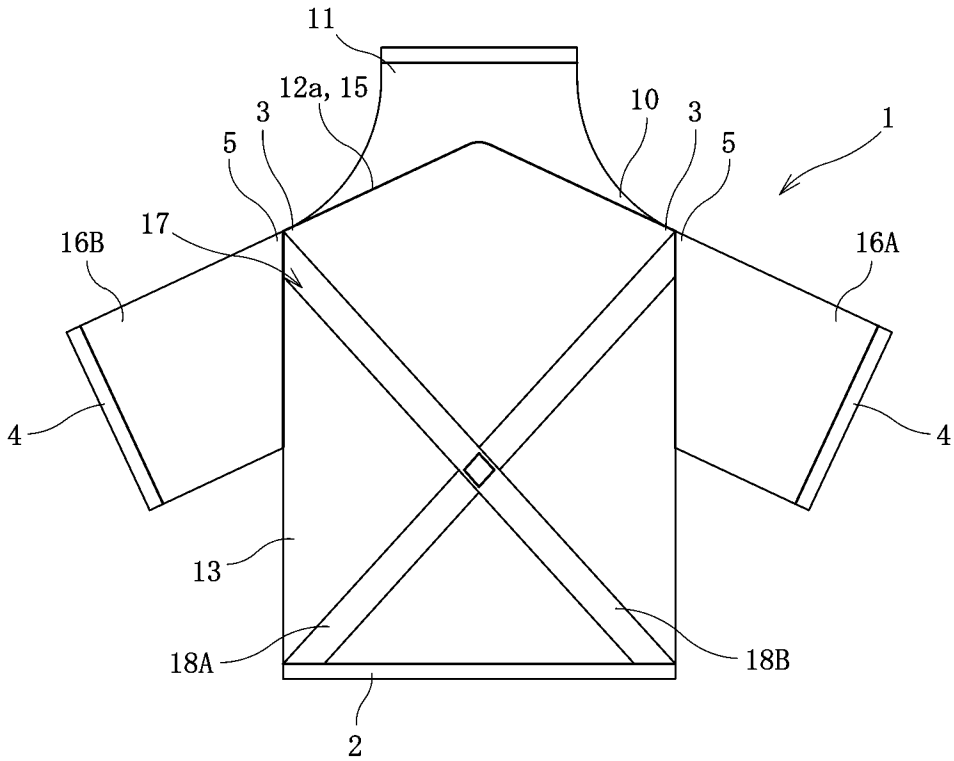
[図9]



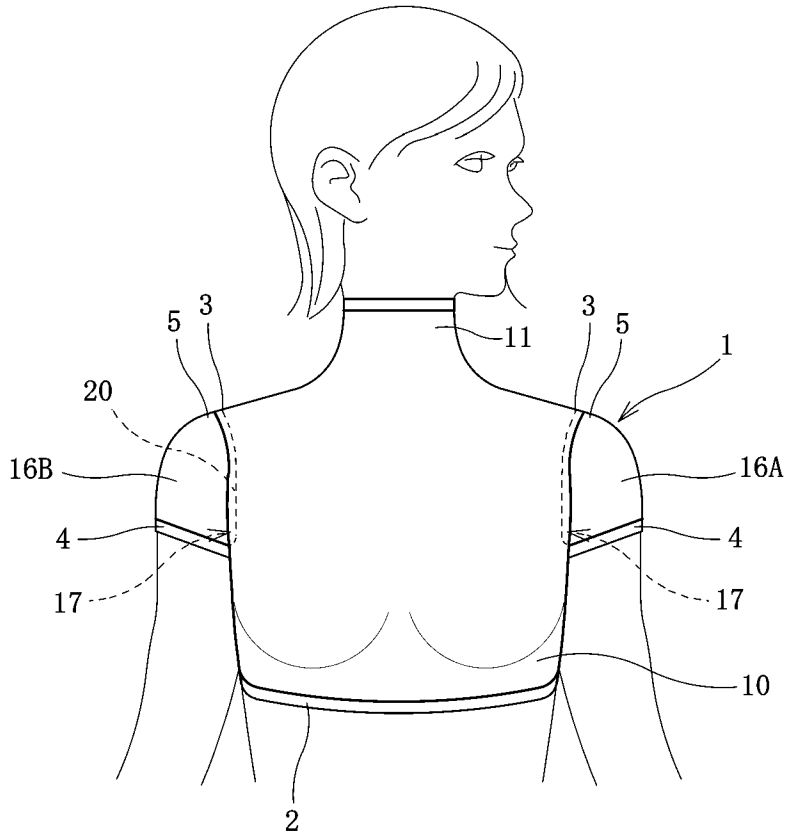
[図10]


12a, 15
10
3
5
11
3
5
1
17
16A
16B
4
4
18B
18A
13
2

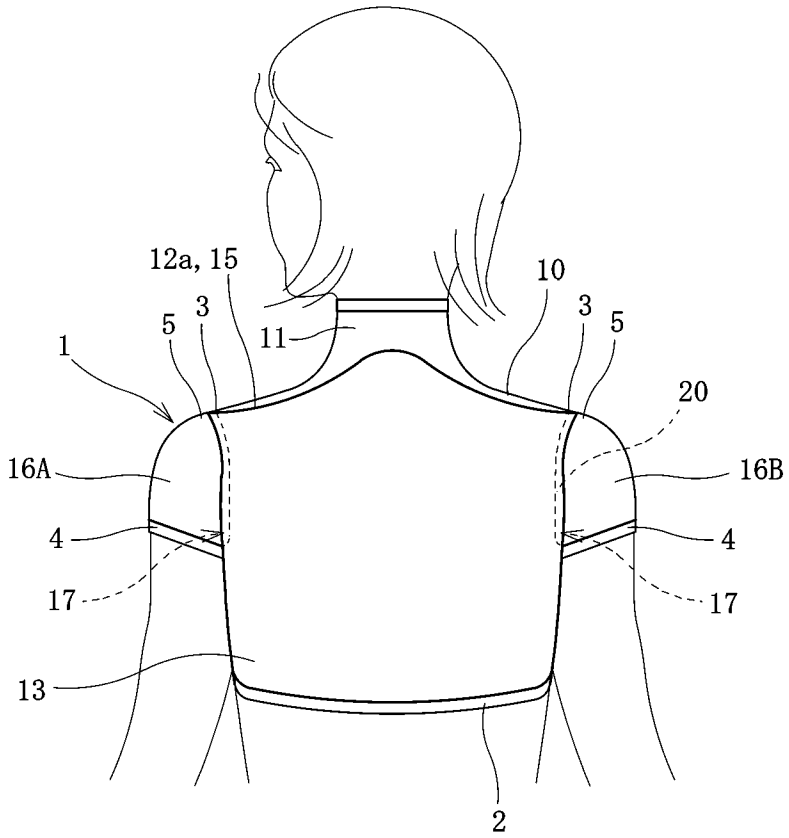
[図11]


11
12a, 15
10
3
3
5
5
1
17
16B
16A
4
4
13
18A
18B
2

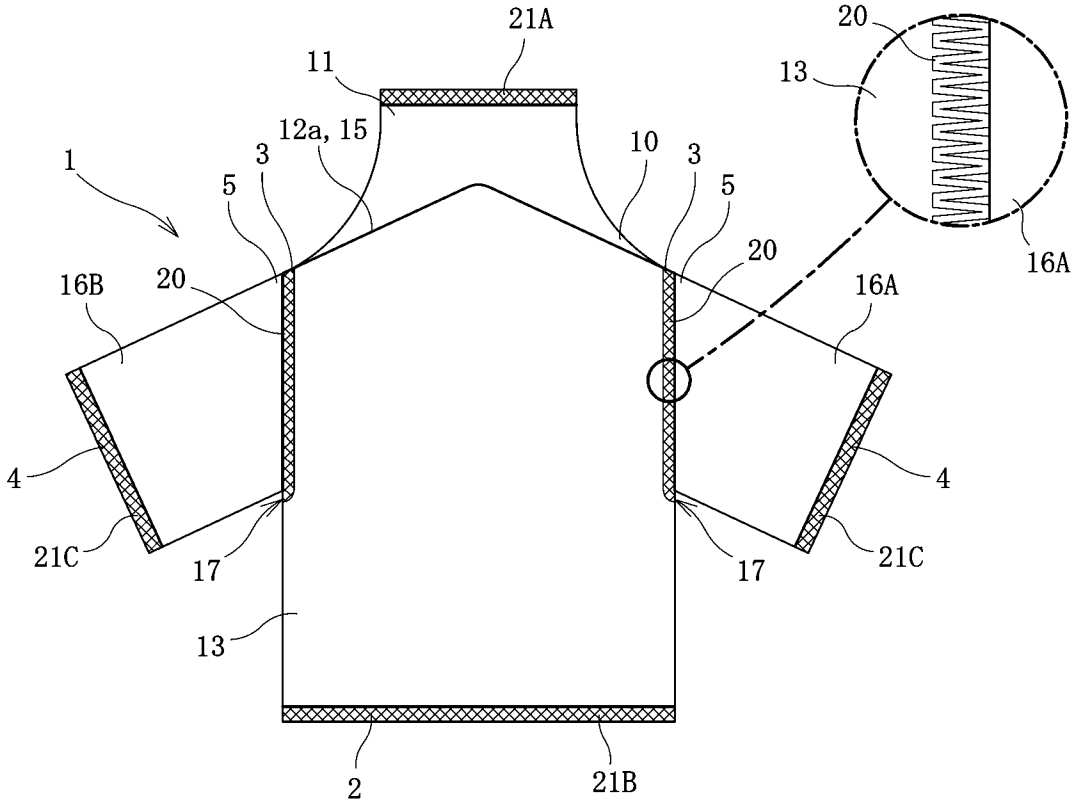
[図12]


5
3
11
3
5
1
20
16B
16A
4
4
17
17
10
2

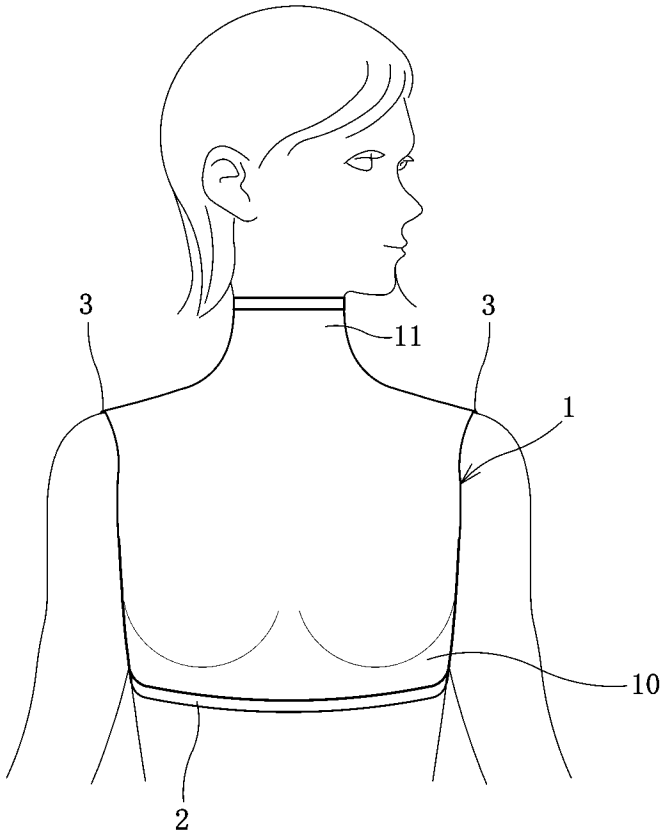
[図13]


12a, 15
10
5
3
11
3
5
1
20
16A
16B
4
4
17
17
13
2

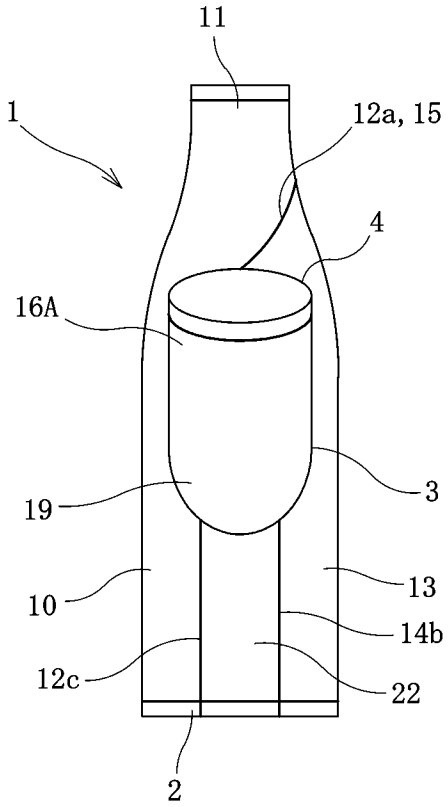
[図14]


21A
11
12a, 15
3
5
1
10
3
5
20
13
16B
20
16A
4
4
21C
17
17
21C
13
2
21B

[図15]


3
3
11
1
10
2

[図16]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2012/052116

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A41B9/06(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A41B9/06

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2012
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2012	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2012

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2005-113338 A (Chizuko IKEUCHI), 28 April 2005 (28.04.2005), (Family: none)	1-9
A	JP 3094056 U (Mariko DEMURA), 30 May 2003 (30.05.2003), (Family: none)	1-9
A	JP 8-60405 A (Wacoal Corp.), 05 March 1996 (05.03.1996), (Family: none)	1-9
A	JP 2010-189784 A (University of Toyama), 02 September 2010 (02.09.2010), (Family: none)	1-9

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
16 February, 2012 (16.02.12)	28 February, 2012 (28.02.12)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2012/052116

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2006-104642 A (Sumie OGAWA), 20 April 2006 (20.04.2006), (Family: none)	1-9
A	JP 11-269702 A (Santoni S.p.A.), 05 October 1999 (05.10.1999), & US 6164094 A & EP 926285 A2	1-9
A	JP 3061254 U (Yugen Kaisha Open Sesame), 17 September 1999 (17.09.1999), (Family: none)	1-9
A	JP 2005-290584 A (Iida Kutsushita Kabushiki Kaisha), 20 October 2005 (20.10.2005), (Family: none)	1-9

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１２／０５２１１６

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41B9/06(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41B9/06

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１２年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１２年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１２年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 2005-113338 A（池内　千津子）2005.04.28,（ファミリーなし）	１－９
A	JP 3094056 U（出村　真里子）2003.05.30,（ファミリーなし）	１－９
A	JP 8-60405 A（株式会社ワコール）1996.03.05,（ファミリーなし）	１－９
A	JP 2010-189784 A（国立大学法人富山大学）2010.09.02,（ファミリーなし）	１－９

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 １６．０２．２０１２	国際調査報告の発送日 ２８．０２．２０１２
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ） 郵便番号１００－８９１５ 東京都千代田区霞が関三丁目４番３号	特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　９３３９ 二ッ谷　裕子 電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 2006-104642 A（小川　住枝）2006.04.20,（ファミリーなし）	１－９
A	JP 11-269702 A（サントニ　エッセ．ピ．ア．）1999.10.05, & US 6164094 A & EP 926285 A2	１－９
A	JP 3061254 U（有限会社オープンセサミ）1999.09.17, （ファミリーなし）	１－９
A	JP 2005-290584 A（イイダ靴下株式会社）2005.10.20, （ファミリーなし）	１－９